
新米神様奮闘記

じかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新米神様奮闘記

【Nコード】

N2946W

【作者名】

じかん

【あらすじ】

新米の神様とその眷族の、犬、猫、カラス、蛇、が地味に活躍します。自サイトにも掲載しています。

其の一「少女の願い」

こんにちは。僕は新米の神です。神になってから、まだ、たったの1000年。神も

楽じゃないですね、右手に物騒に剣を持ち、左手には数珠。でも、剣はしまっておりま

す、危ないから。

僕がこの祠に着任してから、300年で、人は来ないんですけども、だから、暢

気になっちゃって、お願い事って云うか、希望とかですね。あるでしょ誰でも何かし

ら、心願成就、家内安全、開運成就、商売繁盛、厄難消除。方難消除などなど。

神も修行するんです。数百年、数千年、数万年単位で、だいたい、大まかに云うと。

そうすると、更に力が増し、神としての位も上がるのです。それからですね。色々なお

願い事を叶えてあげられるのは。今のところこの位かな。僕もよく分りません。まだま

だ微力ですし、これからですから頑張ろう。と想っていたら、ある日、一人の少女がや

った来た。僕がこの祠に着任してからの、初めての人だ。

「この祠には、神様がいらっしやいますでしょうか。いらっしやいましたら、神様お願

いします。私のお父さんの病気を治していただけませんでしょうか」と云って、香花を供えた。

僕が思念を巡らせると、病気で寝ている少女の父親の枕元に、男の悪霊が座っている。

僕は数珠を、その悪霊に向け放り投げ、縛り上げて呪を唱えると、悪霊は消滅した。

そして、思念で少女に語りかけた。

「少女よ、安心しなさい。汝の父は間もなく回復するであろう」

少女は感涙に咽びながら、感謝の意を示し、お礼を述べて祠を後にした。

其の二「眷族」

ああ、今日もいいお天気だな。鳥さんお早うございます。

「お早うございます神様」

「あなたは」

「初めまして。今日からあなたの眷属の犬です。犬とお呼びください」

「僕、眷属の募集しましたっけ」

「いえ、あの方からの使命です」

「あの方・・・からですか。よろしくお願いします」

「オイラは猫です。よろしく願います。好物はマタタビです」

「ボクはカラスです。野菜はあまり好きではありません」

「私は蛇です。何卒、よろしく願います」

「なるほど。犬さんに、猫さんに、カラスさん、蛇さんですね。こちらこそよろしくお

願います」

「神様、早速ですが、南の方向に異変がございます」と犬が云った。
「そうですね。行ってみましょう」

僕たちは南に向かうと、そこでは人々が逃げ惑っていた。家々は焼かれて、熱気と悲鳴と焦げ臭さが混じっていた。

「悪鬼が一人、あちこちに火をつけながら、人を襲っているぞ」とカラスが上から云った。

「先ずは私が」と蛇が云うと、俄に空は黒みを増し、雨が降り出した。雨は勢いを更に強めて、火は鎮火し始めた。すると犬が悪鬼に走りより跳躍して、悪鬼の喉に噛み付き、喉を噛み切った。しばらく悪鬼はもがいた後、動かなくなった。

村人は安堵して、悪鬼の身体を焼き、その灰を海に流した。僕達はその様子を最後まで見届けて、帰ることにした。

「猫は」犬に訊いた。

「マタタビを見つけて、じゃれております」

「カラスは」

「とんびをからかっています」

「蛇は」

「分かりません」

「そうですか。皆さんお疲れ様でした」

其三「落武者」

「神様、南西で異常があります」

寝ていた僕に犬が云った。

「行きましょう」

僕たちは全員で現地向って着くと蛇が云った。

「結界が張ってある所があり、そこに村人が隠れております」

「落武者の悪霊3人がうろついて暴れているぞ」とカラスが上から云うと、そのまま戻

って、一人の悪霊に向かって急降下した。同時に犬と蛇も動き出し向った。

カラスに気付いた落武者の悪霊は、矢をカラスに向けて放った。

するとカラスは矢を

くちばしで空中で受け止めて、そのまま矢を返した。すると悪霊の額に矢が刺さり、カ

ラスが羽でふわりと扇ぐとさらさらと風に消えた。蛇は槍を持っている相手の身体に絡

みつき、槍ごと締め上げると槍はぽきぽきと折れて、ごろごろと悶えて転げ回った悪霊

は、しばらくして力尽きた。別の落武者の悪霊は犬に対して刀を構えたが、犬の方が速

く落武者の腕に噛み付き、身体を回転させて喉を後足で切り裂くと、手足をばたばたさ

せて抵抗したが、やがてこの悪霊も倒れた

それから僕は呪を唱えて悪霊の姿は消滅した。そして結界の張つてある中に入り、怯

えている村人に声を出して云った。

「みなさん、どうぞご安心を。悪霊は消滅しました」

村人は喜び胸を撫で下ろし、結界の外に出てそれぞれの家に帰り

寛ぎ始めたので、僕

たちも帰ることにした。

「猫は」犬に訊いた。

「村人から干物を貰って喜んで食べております」

「カラスは」

「友達の所へ遊びに行きました」

「蛇は」

「分りません」

「そうですか。みなさんお疲れ様でした」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2946w/>

新米神様奮闘記

2011年10月9日15時25分発行